

令和5年第2回三重県議会定例会
防災県土整備企業常任委員会
説明資料

◎所管事項説明

- (1) 令和5年度三重県・鳥羽市・伊勢市総合防災訓練の実施結果について・・・1
- (2) 令和5年度「防災に関する県民意識調査」結果（速報）について・・・・・・5
- (3) 審議会等の審議状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

《別冊》 令和5年度「防災に関する県民意識調査」結果（速報）

令和5年12月11日

防災対策部

◎所管事項説明

(1) 令和5年度三重県・鳥羽市・伊勢市総合防災訓練の実施結果について

1 訓練の目的

三重県総合防災訓練は、関係機関との連携、地域特性の考慮、住民参加の3つの視点をふまえて、防災体制の充実強化、住民の防災意識向上を目的として毎年度実施しています。

今年度の総合防災訓練は、南海トラフ地震を想定し、津波による甚大な被害が予想される鳥羽市を中心に、離島や観光客への対応という地域特性も考慮した訓練を実施しました。

2 訓練の概要

- (1) 日 時 令和5年11月26日(日)※ 9時00分～11時30分
※観光施設、宿泊施設での避難誘導訓練は先行して実施
- (2) 会 場 (メイン会場) 鳥羽市保健福祉センターひだまり横駐車場、
鳥羽市保健福祉センターひだまり、鳥羽中央公園、鳥羽市民体育館
(サブ会場) 鳥羽市立旧長岡中学校、神島、桃取コミュニティセンター、
鳥羽港中之郷地区、三重県広域防災拠点(伊勢志摩拠点)、
鳥羽市物資拠点、菅崎園地場外離発着場、
伊勢市立旧神社小学校体育館 他
- (3) 参加規模 参加機関：防災関係機関及び行政機関 計 83 団体
参加人数：訓練参加機関 約610名、住民 約3,500名、
来賓及び各訓練会場来場者 約100名 計 約4,210名
- (4) 想 定 南海トラフ地震の発生を想定
- (5) 訓練評価者 三重大学大学院工学研究科 川口 淳 准教授

3 主な訓練内容

(1) 救出救助訓練(鳥羽市保健福祉センターひだまり横駐車場、神島)

各救助機関の連携及び災害装備資機材を有効活用した救出・救助等の一連の手順を確認することを目的として、揺れや浸水による倒壊家屋や土砂埋没車両からの救助活動を実施しました。

特に複数の救助機関が活動状況を共有し対策立案を行う現地合同調整所を設置し、円滑に相互連携を図ることができました。

また、海上保安庁のヘリで神島から吊り上げによる負傷者の救助訓練を実施し、離島における救助手順の確認を行いました。

(2) 応急救護訓練(鳥羽市保健福祉センターひだまり 他)

現場救護所でトリアージした患者を応急救護所で受け入れた後、処置、搬出を実施する訓練により、医療従事者間での連携を確認しました。

また、海上保安庁から消防、病院への輸送連携を確認することを目的として、神島からヘリで運ばれた負傷者を災害拠点病院である伊勢市立伊勢総合病院に搬送する訓練を実施しました。

(3) 物資輸送訓練（鳥羽港中之郷地区、三重県広域防災拠点（伊勢志摩拠点）、鳥羽市物資拠点、菅崎園地場外離着陸場 他）

陸路と海路での国からのプッシュ型支援物資を、県と市の物資拠点を通じて、孤立地域や各避難所に輸送することで、物資輸送の一連の流れを確認しました。

また、物資を輸送した海上自衛隊艦艇への燃料補給訓練を行い、災害時の安全・確実・円滑な燃料供給体制を確立することができました。

(4) 津波避難訓練（鳥羽市内）

鳥羽市全域において住民参加の津波避難訓練を実施し、各住民が実際にそれぞれの避難路の確認を行いました。また、多くの住民が訓練に参加することで、地域全体で防災意識の向上を図ることができました。

(5) 避難所運営訓練（桃取コミュニティセンター、鳥羽市立旧長岡中学校 他）

避難所にDMAT（災害派遣医療チーム）を派遣して、医療的な視点で避難所アセスメントを実施しました。また、段ボールベッド等も活用し、体が不自由な人への対応、授乳室の設置等、多様性に配慮した避難所運営訓練を実施しました。

(6) 観光施設、宿泊施設での避難誘導訓練（鳥羽水族館、鳥羽グランドホテル）

観光地としての災害に対する安全性を高めることを目的として、観光施設や宿泊施設で南海トラフ地震が発生した想定での避難誘導訓練を行いました（鳥羽水族館は9月2日（土）、鳥羽グランドホテルは11月16日（木）に実施）。

(7) 離島におけるライフライン機関による復旧訓練（答志島桃取）

海上保安庁の船舶で通信事業者と電力事業者の職員を答志島へ輸送する訓練を行うとともに、現地で電話基地局の復旧作業を行うことで、離島におけるライフライン施設の復旧手順を確認することができました。

(8) 被災者支援訓練（鳥羽港中之郷地区）

船舶を活用した被災者支援として、海上保安庁による給水支援、入浴支援、携帯電話の充電設備の提供等を行いました。

(9) 遺体安置所運営訓練（伊勢市立旧神社小学校体育館）

遺体安置所の設置、運営に関し、必要となる人員、物資及び各関係機関の役割を確認することができました。

4 訓練評価者からの評価

- ・多様な関係機関が一堂に会し、大規模な訓練を実施できた点については高く評価できる。
- ・訓練の実施に向けた調整や準備を通じて、関係機関同士がそれぞれの能力を発揮するための議論ができたことは、災害発生時に必ず役立つ。
- ・各参加者が今回の訓練で感じた違和感や疑問点は、今後に向けて解決すべき課題であるため、関係機関等と共有、議論し、次回の訓練等で検証してほしい。

5 今後の取組

今後も、三重県総合防災訓練、三重県総合凶上訓練等を通じて県災害対策本部・国・市町・防災関係機関等の連携強化に引き続き取り組むとともに、住民の防災意識向上を図るための訓練や、地域の特性に応じた訓練を実施していきます。

6 訓練写真



救出救助訓練(土砂災害からの救助)



救出救助訓練(倒壊家屋からの救助)



応急救護所訓練(医師等による負傷者のトリアージ)



物資輸送訓練(自衛隊ヘリによる孤立地区への物資輸送)



避難所運営訓練（桃取コミュニティセンター）



避難所運営訓練（旧長岡中学校）



被災者支援訓練（海上保安庁巡視船から給水車への給水）



避難誘導訓練（宿泊施設での従業員による避難誘導）



遺体安置所運営訓練（医師による検視・検案）



訓練講評（三重大学 川口 淳 准教授）

(2) 令和5年度「防災に関する県民意識調査」結果（速報）について

県では、県民の皆さんの自然災害に対する備えの状況や防災に関する意識を把握し、県の防災・減災対策に活用するため、平成14年度から「防災に関する県民意識調査」を実施しています。令和5年度は以下のとおり調査を実施し、各設問別の回答状況などについて調査結果（速報）を取りまとめました。

1 調査の概要

- (1) 調査対象：県内全市町の18歳以上の5,000人
- (2) 調査方法：調査票を郵送（回答は郵送方式とWeb方式を併用）
- (3) 調査期間：令和5年10月13日（金）から令和5年10月30日（月）まで
- (4) 回答率：50.2%（2,512人/5,000人）
- (5) 設問数：49問（枝問含む）

※周知を図るべき用語については調査票に解説を記載するとともに関連ページのリンクをQRコード等で掲載

2 主な調査項目 ※括弧内は意識調査における設問番号（別冊参照）

(1) 災害に対する意識

- ① 東日本大震災後の防災意識の移り変わり（問4）
- ② 紀伊半島大水害後の防災意識の移り変わり（問9）
- ③ 地震に対する避難行動のきっかけ（問5-1）
- ④ 地震に対して避難しない理由（問5-2）
- ⑤ 風水害に対する避難行動のきっかけ（問10-1）
- ⑥ 風水害に対して避難しない理由（問10-2）
- ⑦ 南海トラフ地震臨時情報の認知度（問3）
- ⑧ 避難情報（警戒レベル）の認知度（問7）
- ⑨ 線状降水帯の認知度（問8）【新規】

(2) 災害時の情報収集

- ⑩ 災害時の情報の入手先（現在）（問11）
- ⑪ 災害時の情報の入手先（今後）（問12）
- ⑫ 災害時に知りたい情報（問13）
- ⑬ プッシュ型で受け取りたい情報（問14）【新規】

(3) 「自助」、「共助」の取組状況

- ⑭ 家庭での防災対策の状況（問19）
- ⑮ 防災対策についての身近な人との話し合いの状況（問20）【新規】
- ⑯ 地域の防災活動への参加意識（問21）
- ⑰ 地域や職場における防災活動への参加状況（問22-1）
- ⑱ 参加したい防災活動（問22-4）【新規】

(4) 消防団

- ⑲ 消防団の認知度（問26）【新規】
- ⑳ 消防団に期待する活動（問27）【新規】
- ㉑ 消防団への入団意思（問28-1）【新規】
- ㉒ 消防団に入団しない理由（問28-2）

3 主な調査項目の概要

(1) 災害に対する意識

<主な調査結果>

- ・地震に対する防災意識について、前回調査に続き、約半数の方が「時間の経過とともに薄れつつある」と答えています。【①】
- ・風水害に対する防災意識について、「時間の経過とともに薄れつつある」と答えた方の割合が増加傾向にあります。【②】
- ・地震や大雨の際に避難しようと思わない理由として、「避難所での生活が不便・不自由と感じる」と答えた方の割合が最も高くなっています。【④⑥】
- ・大雨の際に避難しようと思わない理由では、「避難場所や避難所までの避難経路が危険」と答えた方の割合も高くなっています。【⑥】
- ・南海トラフ地震臨時情報について、知っていると答えた方の割合が増加しているものの、依然として7割以上の方が、具体的な内容を知らないと答えています。【⑦】
- ・避難情報(警戒レベル)の具体的な内容について、知っていると答えた方の割合が増加しているものの、依然として7割以上の方が知らないと答えています。【⑧】
- ・線状降水帯について、約半数の方が特徴や危険性、必要な対応などの具体的な内容を知らないと答えています。【⑨】

<今後の対応>

- ・県民の防災意識向上や災害に関する情報の理解促進に向け、県政だよりや各メディアでの広報、シンポジウムの開催、地震体験車の派遣、ホームページでの情報提供などに加え、これまで啓発の機会が少なかった方々への啓発を実施するため、今年度から新たに、不特定多数の方が訪れるショッピングモール等での防災啓発イベント「三重県防災フェス」を開催しています。今後も引き続き、より多くの方々に防災への関心を持っていただけるよう、さまざまな手段を活用した啓発活動に取り組みます。
- ・市町に対する財政支援を通じて、避難所の環境改善や避難路の整備等を促進するとともに、「三重県避難所運営マニュアル策定指針」等にもとづき、地域が行う避難所運営の取組に対して防災技術指導員による技術的支援を行い、誰もが安心して避難できるよう取り組めます。

① 東日本大震災後の防災意識の移り変わり（問4）

平成23年の東日本大震災の発生から12年が経過しましたが、あなたの地震に対する防災意識に変化はありますか。

	1	2	3	4	5
選択肢	東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を維持している	東日本大震災発生時に持った防災意識を今も変わらず維持している (またはさらに高まった)	東日本大震災発生時には防災意識を持っていたが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある	東日本大震災発生時に防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった	東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に防災意識は持たなかった
R 5	5.2%	13.5%	50.2%	23.9%	6.5%
R 4	5.7%	12.0%	51.5%	24.5%	4.4%
R 3	9.9%	11.7%	35.3%	35.3%	4.1%

○ 東日本大震災発生後の防災意識について、「時間の経過とともに薄れつつある」と答えた方の割合が50.2%と最も高くなっています。

② 紀伊半島大水害後の防災意識の移り変わり（問9）

平成23年の紀伊半島大水害の発生から12年が経過しましたが、あなたの風水害に対する防災意識に変化はありますか。

	1	2	3	4	5	6
選択肢	紀伊半島大水害以前から、変わらず高い防災意識を維持している	紀伊半島大水害当時に持った防災意識を今も変わらず維持している (またはさらに高まった)	紀伊半島大水害当時には防災意識を持っていたが、時間の経過とともに防災意識が薄れつつある	紀伊半島大水害当時には防災意識を持ち、その後、時間の経過とともに防災意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった	紀伊半島大水害当時は防災意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、防災意識は高まった。	紀伊半島大水害当時に、近年頻発する風水害発生時にも、特に防災意識は持たなかった
R 5	7.1%	8.7%	35.6%	17.2%	15.8%	14.2%
R 4	6.7%	7.3%	32.5%	17.0%	16.9%	14.3%
R 3	9.2%	10.8%	24.9%	24.0%	18.6%	11.2%

○ 紀伊半島大水害発生後の防災意識について、「時間の経過とともに薄れつつある」と答えた方の割合が35.6%と最も高くなっています。

③ 地震に対する避難行動のきっかけ（問5-1）

大きな地震が発生した場合、あなたは何をきっかけに避難しますか。（複数選択可）

選択肢	1	2	3	4	5	6
	地震の揺れが収まったら即座に避難する		市町からの避難指示等	家族からの連絡	地域の人の声掛け	テレビやラジオ等による情報
R 5	35.1%	55.9%	27.9%	28.9%	51.8%	27.3%
R 4	30.3%	56.5%	26.9%	29.9%	49.9%	-
選択肢	7	8	9	10	11	12
	家の停電やガス、水道の停止	自宅が倒壊する危険性を感じたとき	避難行動を取ることができない	避難の必要がない	避難しようと思わない	その他
R 5	24.8%	49.9%	1.9%	1.0%	2.3%	1.3%
R 4	24.5%	51.4%	1.8%	0.8%	1.6%	1.8%

○ 地震に対する避難行動のきっかけとして、「市町からの避難指示等」と答えた方の割合が55.9%と最も高く、次いで「テレビやラジオ等による情報」(51.8%)、「自宅が倒壊する危険性を感じたとき」(49.9%)の割合が高くなっています。

④ 地震に対して避難しない理由（問5-2）

問5-1で「11. 避難しようと思わない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない理由は何ですか。（複数選択可）

選択肢	1	2	3	4	5
	最寄りの避難場所や避難所を知らないから		避難場所や避難所までの避難経路が危険だから	体力や健康上の理由から避難することが困難だから	避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから
R 5	7.0%	19.3%	14.0%	40.4%	24.6%
R 4	2.3%	11.6%	16.3%	32.6%	-
R 3	5.4%	17.5%	10.8%	39.8%	-
選択肢	6	7	8	9	10
	介護が必要等、避難が困難な家族がいるから	家や家財を残して避難することに抵抗感があるから	ペットを残して避難することに抵抗感があるから	面倒だから	その他
R 5	8.8%	19.3%	24.6%	10.5%	8.8%
R 4	11.6%	7.0%	27.9%	2.3%	4.7%
R 3	7.0%	15.1%	16.9%	5.6%	13.4%

○ 大地震発生時に避難しようと思わない理由として、「避難所での生活が不便・不自由とを感じる」と答えた方の割合が40.4%と最も高くなっています。

⑤ 風水害に対する避難行動のきっかけ（問 10-1）

被害の発生が予測されるような大雨が降っている場合、あなたは何をきっかけに避難しますか。（複数選択可）

選択肢	1	2	3	4	5	6
	大雨が見込まれる段階で事前に避難しておく		市町からの避難指示等	家族からの連絡	地域の人の声掛け	テレビやラジオ等による情報
R 5	6.7%	65.2%	28.1%	28.7%	51.0%	25.2%
R 4	6.0%	62.7%	23.8%	29.6%	47.7%	-
選択肢	7	8	9	10	11	12
	家の停電やガス、水道の停止	自宅が倒壊する危険性を感じたとき	避難行動を取ることができない	避難の必要がない	避難しようと思わない	その他
R 5	21.7%	42.5%	1.8%	2.7%	3.8%	0.4%
R 4	20.4%	42.3%	1.7%	3.0%	4.3%	1.8%

○ 風水害に対する避難行動のきっかけとして、「市町からの避難指示等」と答えた方の割合が 65.2%と最も高く、次いで「テレビやラジオ等による情報」(51.0%)、「自宅が倒壊する危険性を感じたとき」(42.5%)の割合が高くなっています。

▶ ⑥ 風水害に対して避難しない理由（問 10-2）

問 10-1 で「11. 避難しようと思わない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない理由は何ですか。（複数選択可）

選択肢	1	2	3	4	5
	最寄りの避難場所や避難所を知らないから		避難場所や避難所までの避難経路が危険だから	体力や健康上の理由から避難することが困難だから	避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから
R 5	7.4%	24.2%	8.4%	31.6%	18.9%
R 4	4.3%	19.8%	9.5%	25.0%	-
選択肢	6	7	8	9	10
	介護が必要等、避難が困難な家族がいるから	家や家財を残して避難することに抵抗感があるから	ペットを残して避難することに抵抗感があるから	面倒だから	その他
R 5	8.4%	16.8%	24.2%	9.5%	28.4%
R 4	6.9%	3.4%	17.2%	3.4%	11.2%

○ 被害の発生が予測されるような大雨の際に避難しようと思わない理由として、「避難所での生活が不便・不自由とを感じる」と答えた方の割合が 31.6%と最も高くなっています。

○ また、「避難場所や避難所までの避難経路が危険」と答えた方の割合も 24.2%と高くなっています。

⑦ 南海トラフ地震臨時情報の認知度（問3）

南海トラフ地震臨時情報について、地震発生から津波到達までに避難が間に合わない地域では事前に避難することとなっていますが、このことを知っていますか。

	1	2	3
選択肢	知っている	名称は知っているが、具体的な内容(何をすべきか)は知らない	知らない
R 5	24.6%	36.2%	38.7%
R 4	23.2%	30.4%	43.5%

- 南海トラフ地震臨時情報について、「知っている」「名称は知っているが具体的な内容は知らない」と答えた方の割合が増加しています。
- 一方で、依然として74.9%の方が、南海トラフ地震臨時情報が発表されたときに何をすべきか知らない(選択肢2,3)と答えています。

⑧ 避難情報（警戒レベル）の認知度（問7）

市町が発令する避難情報に5段階の警戒レベルを用いて伝達することとなっていますが、この警戒レベルを知っていますか。

	1	2	3
選択肢	具体的な内容を知っている	警戒レベルの名称は知っているが、具体的な内容は知らない	知らない
R 5	27.2%	57.0%	14.9%
R 4	21.5%	61.9%	13.0%

- 避難情報(警戒レベル)について、「具体的な内容を知っている」と答えた方の割合が増加しています。
- 一方で、依然として71.9%の方が避難情報(警戒レベル)の具体的な内容を知らない(選択肢2,3)と答えています。

⑨ 線状降水帯の認知度（問8）【新規】

近年各地で発生し、被害をもたらしている「線状降水帯」について、その特徴や危険性、必要な対応について知っていますか。

	1	2	3
選択肢	特徴や危険性、必要な対応を知っている	名称は知っているが、特徴や危険性、必要な対応は知らない	知らない
R 5	52.7%	41.3%	5.4%

- 線状降水帯について、52.7%の方が、「特徴や危険性、必要な対応まで知っている」と答えています。
- 一方で、46.7%の方が特徴や危険性、必要な対応を知らない(選択肢2,3)と答えています。

(2) 災害時の情報収集

<主な調査結果>

- ・ 現在利用している災害時の情報の入手先について、「テレビ」、「携帯メール(「防災みえメール配信サービス」以外)」、「市町の防災行政無線」と答えた方の割合が高くなっています。【⑩】
- ・ 今後利用したい情報の入手先についても、現在の入手先と同様の項目の割合が高くなっていますが、それ以外では「防災アプリ」の割合も高くなっています。【⑪】
- ・ 現在利用している情報の入手先及び今後利用したい情報の入手先として、県の防災ホームページ「防災みえ.jp」や防災みえメール配信サービスの割合が、昨年度に比べて低くなっており、市町や民間事業者などが提供するメール配信サービスやプッシュ型の通知が受け取れる防災アプリなど、情報の入手先が多様化していることが推測されます。【⑩⑪】
- ・ 災害時に知りたい情報について、これまでニーズが高かった項目(「気象情報」、「避難情報(警戒レベル)」、「ライフライン情報」とともに、近年の状況をふまえて新たに追加した項目(「河川情報」、「地震に関する情報」)の割合が高くなっています。【⑫】
- ・ プッシュ型の情報発信で受け取りたい情報についても災害時に知りたい情報と同様の項目の割合が高くなっています。【⑬】

<今後の対応>

- ・ 多くの方が災害時に知りたいと答えている「気象情報」、「地震に関する情報」等については、現在、県の防災ホームページ「防災みえ.jp」や防災みえメール配信サービスで提供しており、より幅広い層の方々に利用していただけるよう、防災啓発イベント「三重県防災フェス」等において、活用促進に向けた啓発活動を展開してきました。今後は、災害時に必要となる情報の入手先の変化をふまえ、より利用していただきやすいプッシュ型の情報発信の強化を図ります。

⑩ 災害時の情報の入手先（現在）（問 11）

気象や災害についての情報の入手先についてお尋ねします。現在どこから入手することが多いかお答えください。（複数選択可）

選択肢	1	2	3	4	5	6	7
	テレビ	ラジオ	新聞	市町の防災行政無線	県や市町の広報誌、冊子	県の防災ホームページ「防災みえ.jp」	県の土砂災害情報に関するHP「三重県土砂災害情報提供システム」
R 5	88.9%	22.3%	20.4%	33.0%	11.2%	12.6%	6.4%
R 4	89.9%	23.5%	28.4%	29.0%	11.3%	20.2%	11.1%
R 3	89.8%	26.9%	38.6%	27.5%	15.3%	16.6%	-
選択肢	8	9	10	11	12	13	14
	キキクル（危険度分布）	防災に関するホームページ（6～8以外）	防災みえメール配信サービス	携帯メール（「防災みえメール配信サービス」以外）	県公式 SNS（「防災みえ X（旧 Twitter）/LINE」）	SNS（X（旧 Twitter）/LINE/Facebook 等）（県公式 SNS 以外）	防災アプリ
R 5	5.7%	7.0%	13.1%	35.9%	2.5%	12.3%	21.4%
R 4	-	-	33.2%	14.1%	2.9%	12.0%	25.5%
R 3	-	-	10.4%	3.1%	6.4%	22.2%	22.2%
選択肢	15	16	17	18	19	20	21
	街頭の掲示板	家族から	友人、知人から	町内会・自治会を通じて	消防署・消防団を通じて	その他	どこからも入手していない
R 5	0.8%	26.6%	15.5%	17.4%	7.4%	1.8%	0.4%
R 4	1.3%	25.1%	15.8%	15.2%	7.2%	0.8%	0.1%
R 3	2.3%	27.9%	20.1%	15.6%	6.0%	1.3%	0.1%

○ 現在利用している災害時の情報の入手先について、「テレビ」と答えた方の割合が 88.9%と最も高く、次いで、「携帯メール（「防災みえメール配信サービス」以外）」（35.9%）、「市町の防災行政無線」（33.0%）、「家族から」（26.6%）、「ラジオ」（22.3%）の割合が高くなっています。

○ 一方、県の防災ホームページ「防災みえ.jp」や防災みえメール配信サービスの割合が、昨年度に比べて低くなっています。

⑪ 災害時の情報の入手先（今後）（問 12）

気象や災害についての情報の入手先についてお尋ねします。今後どこから入手したいかお答えください。（複数選択可）

選択肢	1	2	3	4	5	6	7
	テレビ	ラジオ	新聞	市町の防災行政無線	県や市町の広報誌、冊子	県の防災ホームページ「防災みえ.jp」	県の土砂災害情報に関するHP「三重県土砂災害情報提供システム」
R 5	61.6%	21.3%	13.7%	29.3%	9.3%	17.8%	10.5%
R 4	68.9%	25.6%	18.6%	28.7%	9.6%	31.5%	19.9%
R 3	67.8%	25.1%	26.0%	24.3%	12.9%	36.2%	-
選択肢	8	9	10	11	12	13	14
	キキクル（危険度分布）	防災に関するホームページ（6～8以外）	防災みえメール配信サービス	携帯メール（「防災みえメール配信サービス」以外）	県公式 SNS（「防災みえ X（旧 Twitter）/LINE」）	SNS（X（旧 Twitter）/LINE/Facebook 等）（県公式 SNS 以外）	防災アプリ
R 5	14.7%	8.4%	20.6%	30.6%	9.0%	13.2%	25.7%
R 4	-	-	42.3%	16.5%	12.3%	13.9%	29.6%
R 3	-	-	30.7%	10.8%	15.9%	12.0%	25.1%
選択肢	15	16	17	18	19	20	21
	街頭の掲示板	家族から	友人、知人から	町内会・自治会を通じて	消防署・消防団を通じて	その他	特に入手したいと思わない
R 5	1.7%	16.6%	11.0%	20.5%	13.0%	1.5%	0.8%
R 4	1.7%	18.0%	12.5%	18.8%	12.6%	0.8%	0.1%
R 3	3.3%	19.0%	14.8%	17.8%	9.9%	0.9%	0.4%

- 今後利用したい災害時の情報の入手先について、「テレビ」と答えた方の割合が 61.6%と最も高く、次いで、「携帯メール（「防災みえメール配信サービス」以外）」（30.6%）、「市町の防災行政無線」（29.3%）、「防災アプリ」（25.7%）、「ラジオ」（21.3%）の割合が高くなっています。
- 一方、県の防災ホームページ「防災みえ.jp」や防災みえメール配信サービスの割合が、昨年度に比べて低くなっています。

⑫ 災害時に知りたい情報（問 13）

災害発生時やそのおそれがあるときにどのような情報を知りたいですか。（複数選択可）

	1	2	3	4	5	6
選択肢	気象情報(天 気・警報/注 意報・雨量・ 線状降水帯 に関する情報 等)	河川情報(水 位等)	土砂災害に 関する情報 (土砂災害警 戒区域、土砂 災害警戒情 報等)	地震に関する 情報(緊急地 震速報、南海 トラフ地震臨 時情報等)	避難情報(警 戒レベル)	避難所情報
R 5	85.4%	60.2%	39.2%	74.8%	63.9%	47.0%
R 4	81.9%	-	36.0%	-	71.0%	52.8%
R 3	81.8%	-	-	-	70.0%	51.2%
	7	8	9	10	11	12
選択肢	医療・救援情 報	交通・道路 情報	ライフライン (電気・ガ ス・水道・電 話通信)情報	県、市町か らのお知らせ	被害情報 (詳細) : 文字による 被害詳細情 報	被害情報 (概要) : 地図情報
R 5	33.7%	49.0%	62.2%	30.8%	20.1%	22.1%
R 4	40.5%	51.4%	68.5%	39.9%	29.7%	28.2%
R 3	40.9%	54.7%	67.1%	39.5%	31.4%	30.9%
	13	14	15	16		
選択肢	ライブカメ ラ等の映像 情報	災害、天気 に関するニ ュース	その他	特に知りたい 情報はない		
R 5	29.4%	32.5%	0.9%	0.4%		
R 4	31.6%	38.4%	1.5%	-		
R 3	31.6%	38.4%	2.4%	-		

○ 災害時に知りたい情報について、「気象情報」と答えた方の割合が 85.4%と最も高く、次いで、「地震に関する情報」(74.8%)、「避難情報(警戒レベル)」(63.9%)、「ライフライン情報」(62.2%)、「河川情報」(60.2%)の割合が高くなっています。

⑬ プッシュ型で受け取りたい情報（問 14）

スマートフォン等で通知が受け取れるプッシュ型の情報提供を受ける場合、どのような情報を受け取りたいですか。（複数選択可）

	1	2	3	4	5	6
選択肢	気象情報(天気・警報/注意報・雨量・線状降水帯に関する情報等)	河川情報(水位等)	土砂災害に関する情報(土砂災害警戒区域、土砂災害警戒情報等)	地震に関する情報(緊急地震速報、南海トラフ地震臨時情報等)	避難情報(警戒レベル)	避難所情報
R 5	66.4%	47.7%	33.6%	63.6%	57.2%	43.4%
	7	8	9	10	11	12
選択肢	医療・救援情報	交通・道路情報	ライフライン(電気・ガス・水道・電話通信)情報	県、市町村からのお知らせ	その他	プッシュ型の情報提供で受け取りたい情報はない
R 5	32.7%	43.9%	50.2%	27.7%	0.4%	1.1%

- プッシュ型で受け取りたい情報について、「気象情報」と答えた方の割合が66.4%と最も高く、次いで、「地震に関する情報」(63.6%)、「避難情報(警戒レベル)」(57.2%)、「ライフライン情報」(50.2%)、「河川情報」(47.7%)の割合が高くなっています。

(3) 「自助」、「共助」の取組状況

<主な調査結果>

- ・ 家庭の防災対策について、「感染症対策に必要な物品を確保している」、「非常持ち出し袋を準備している」、「3日分以上の飲料水を備蓄している」、「携帯電話やスマートフォン等の予備電源を確保している」と答えた方の割合が高くなっています。一方で、「特に対策をとっていない」と答えた方の割合が増加傾向にあり、9.7%となっています。【⑭】
- ・ 日頃の防災対策について、約7割の方が、身近な人と話し合ったことがあると答えている一方で、「日頃からよく話し合っている」と答えた方は5.4%にとどまっています。【⑮】
- ・ 地域の防災活動について、「参加したい」と答えた方の割合は減少し、「あまり参加したいとは思わない」「参加したくない」と答えた方の割合は増加しています。【⑯】
- ・ 過去1年間に地域や職場の防災活動に参加したことがない方のうち、「簡単な内容で気軽に参加できるもの」であれば参加したいと答えた方の割合が最も高く、次いで「短い時間で実施できるもの」、「年齢や性別等に関わらず誰でも参加できるもの」と答えた方の割合が高くなっています。【⑰】

<今後の対応>

- ・ 家庭での備蓄や適切な避難行動に向けた準備など、個人や家庭における災害への備えを促進するため、地震体験車の派遣や三重県防災ガイドブックの配布などの従来からの取組に加え、今年度から不特定多数の方が訪れるショッピングモール等で開催している防災啓発イベント「三重県防災フェス」において、より気軽に参加でき、防災について考えていただけるよう、クイズラリーや気象実験等の体験メニューなどを実施しています。今後も、より多くの方々に防災への関心を持っていただけるよう啓発手法を工夫しながら、災害への備えを促進します。
- ・ 「みえ防災・減災センター」と連携しながら、これからの地域防災の担い手となる人材の育成を進めるとともに、育成した人材を地域につなげていくことで、地域住民の防災意識の向上や地域の防災活動への支援に取り組みます。
- ・ 防災技術指導員による地域・企業等の防災活動への支援や「みえの防災大賞」による優れた防災活動の顕彰・水平展開等を通じて、地域の防災活動の活性化や地域住民の防災活動への参加促進を図ります。

⑭ 家庭での防災対策の状況（問 19）

あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。（複数選択可）

選択肢	1	2	3	4	5
	3日分以上の飲料水を備蓄している	3日分以上の食料を常に確保している	懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している	懐中電灯や携帯ラジオ等について、電池交換等、こまめに点検している	携帯電話やスマートフォン、タブレット端末の予備電源（モバイルバッテリー）を確保している
R 5	39.5%	29.9%	41.1%	22.2%	33.6%
R 4	38.2%	33.1%	47.3%	32.9%	27.0%
R 3	38.7%	33.1%	48.3%	35.7%	23.2%
選択肢	6	7	8	9	10
	自家用車の燃料が半分程度になった時点で給油をしている	携帯トイレを準備している	マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している	寝室にスリッパを置いている	いつも笛を身につけている
R 5	32.2%	22.5%	41.8%	20.1%	2.3%
R 4	29.2%	18.3%	52.9%	13.2%	1.9%
R 3	30.0%	-	56.9%	15.1%	2.0%
選択肢	11	12	13	14	15
	消火器を用意している	断水に備えてお風呂にいつも水を入れている	ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている	転倒の危険性のある家具等を固定している	本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
R 5	21.9%	7.6%	4.9%	25.5%	10.1%
R 4	24.9%	9.8%	4.8%	-	12.4%
R 3	29.7%	10.9%	6.2%	-	13.8%
選択肢	16	17	18	19	20
	寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている	地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している	感震ブレーカーを設置している	災害が起きたとき避難する場所を決めている	災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
R 5	28.7%	27.3%	4.2%	22.2%	4.9%
R 4	32.5%	26.4%	2.9%	33.7%	6.4%
R 3	37.4%	31.7%	4.9%	34.1%	8.3%
選択肢	21	22	23	24	
	家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている	ペットの防災用品（餌や水、ケージ等）の準備や、避難先の検討等を行っている	その他	特に対策をとっていない	
R 5	13.3%	3.6%	1.1%	9.7%	
R 4	17.2%	3.9%	1.8%	7.4%	
R 3	16.9%	4.0%	1.9%	6.2%	

- 家庭での防災対策について、「感染症対策に必要な物品を確保している」と答えた方の割合が41.8%と最も高く、次いで、「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」(41.1%)、「3日分以上の飲料水を備蓄している」(39.5%)、「携帯電話やスマートフォン等の予備電源を確保している」(33.6%)、「自家用車の燃料が半分程度になった時点で給油をしている」(32.2%)の割合が高くなっています。
- 「特に対策をとっていない」と答えた方の割合が増加傾向にあります。

⑮ 日頃の防災対策について、身近な人との話し合い（問 20）【新規】

あなたは日ごろの防災対策について家族や親戚、知人などの身近な人と話し合っていますか。

	1	2	3
選択肢	日頃からよく話し合っている	日頃から話し合っているが、話し合ったことがある	話し合ったことがない
R 5	5.4%	62.9%	28.7%

- 日頃の防災対策について、68.3%の方が身近な人と話し合ったことがある(選択肢1, 2)と答えている一方で、「日頃からよく話し合っている」と答えた方は5.4%にとどまっています。

⑯ 地域の防災活動への参加意識（問 21）

あなたは、地域で実施される防災活動に参加しようと思いますか。

	1	2	3	4
選択肢	積極的に参加したいと思っている	機会があれば参加したいと思っている	あまり参加したいとは思わない	参加したくない
R 5	8.1%	53.0%	31.7%	6.1%
R 4	9.3%	62.7%	17.3%	7.7%

- 地域の防災活動について、「参加したい」(選択肢1, 2)と答えた方の割合は減少し、「あまり参加したいとは思わない」「参加したくない」(選択肢3, 4)と答えた方の割合は増加しています。

⑰ 地域や職場における防災活動への参加状況（問 22-1）

あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動に参加したことがありますか。

	1	2	3	4
選択肢	地域の防災活動に参加した	職場の防災活動に参加した	地域と職場、両方の防災活動に参加した	参加していない
R 5	23.0%	15.6%	4.2%	56.2%
R 4	19.3%	16.9%	3.2%	58.1%
R 3	19.4%	18.0%	4.5%	56.5%

- 「地域の防災活動に参加した」と答えた方の割合が昨年度に比べて増加し、23.0%となっています。
- 一方で、地域と職場のどちらの防災活動にも「参加していない」と答えた方の割合が56.2%と最も高くなっています。

⑱ 参加したい防災活動（問 22-4）【新規】

問 22-1 で「4.参加していない」と回答された方にお尋ねします。どのような防災活動であれば参加したいと思いますか。（複数選択可）

	1	2	3	4	5
選択肢	短い時間で実施できるもの	家族で参加できるもの	簡単な内容で気軽に参加できるもの	年齢や性別等に関わらず誰でも参加できるもの	地域のイベント等と合わせて行われるもの
R 5	41.4%	19.1%	47.0%	22.2%	17.9%
	6	7	8		
選択肢	商業施設等で行われるもの	どれも参加したいと思わない	その他		
R 5	7.8%	16.3%	5.4%		

- 過去1年間に地域や職場の防災活動に参加していない方のうち、47.0%が「簡単な内容で気軽に参加できるもの」であれば参加したいと答えており、次いで「短い時間で実施できるもの」（41.4%）、「年齢や性別等に関わらず誰でも参加できるもの」（22.2%）の割合が高くなっています。

(4) 消防団

<主な調査結果>

- ・ 消防団について8割以上の方が「知っている」と答えている一方で、「活動内容や役割まで知っている」と答えた方は約2割にとどまっています。【⑱】
- ・ 消防団に期待する活動について、「火災時の消火活動」、「大規模災害時の救出救助や避難誘導」、「風水害時の水防活動」と答えた方の割合が高くなっています。また、火災予防や応急手当等の普及啓発活動や防災訓練等の指導などにも一定の期待が寄せられています。【⑳】
- ・ 消防団への入団意思について、約6割の方が「入団しない」と答えている一方で、「入団する」「一部の活動に絞ってであれば入団する」「環境等が改善されれば入団を検討する」と入団に関心がある方の割合があわせて約1割となっています。【㉑】
- ・ 消防団に入団しない理由について、「体力的にきついイメージがある」、「消防団活動と仕事の両立が難しそう」と答えた方の割合が高くなっています。【㉒】

<今後の対応>

- ・ 消防団活動の認知度向上を図るため、チラシやポスターなど国が実施する普及啓発ツール等を積極的に活用し、全庁を挙げて消防団の普及啓発に取り組みます。
- ・ 地域コミュニティと一体となって消防団活動が活性化される取組や消防団の活動環境の改善に向けた取組を行う市町を支援することで、消防団員のモチベーションの向上を図るとともに、より多くの方がそれぞれのライフスタイルに合わせて消防団活動に参画できるよう、活動内容を一部に絞った機能別消防団員制度の活用を市町に促すことにより、消防団への入団促進を図ります。

⑱ 消防団の認知度（問 26）【新規】

消防団について知っていますか。

	1	2	3
選択肢	名称だけでなく、活動内容や役割まで知っている	消防団の名称は知っているが、具体的な活動内容や役割は知らない	知らない
R 5	23.7%	63.1%	10.8%

- 消防団について86.8%の方が「知っている」（選択肢1, 2）と回答し、23.7%の方は「活動内容や役割まで知っている」と回答しています。

⑳ 消防団に期待する活動（問 27）【新規】

消防団は地域防災におけるさまざまな活動を行っていますが、お住いの地域の消防団に期待する活動はどのようなものですか。（複数選択可）

選択肢	1	2	3	4	5
	火災時の消火活動	風水害時の水防活動	大規模災害時の救出救助や避難誘導	火災予防の啓発活動	防災意識向上の啓発活動
R 5	76.5%	54.0%	57.3%	25.4%	21.1%
選択肢	6	7	8	9	
	応急手当等の普及活動	防災訓練等の指導	地域行事等の警備	その他	
R 5	25.8%	28.0%	15.6%	3.0%	

○ 消防団に期待する活動について「火災時の消火活動」と答えた方の割合が 76.5%と最も高く、次いで「大規模災害時の救出救助や避難誘導」（57.3%）、「風水害時の水防活動」（54.0%）の割合が高くなっています。

㉑ 消防団への入団意思（問 28-1）【新規】

消防団への入団を勧められた場合、どうされますか。

選択肢	1	2	3	4	5	6
	現在、消防団に入団している	入団する	一部の活動に絞ってであれば入団する（機別消防団員）	環境等が改善されれば入団を検討する	入団しない	わからない
R 5	1.4%	1.4%	6.2%	3.3%	58.6%	24.7%

○ 消防団への入団意思について、「入団しない」と答えた方の割合が 58.6%と最も高くなっています。

○ 一方で、「入団する」（1.4%）「一部の活動に絞ってであれば入団する」（6.2%）「環境等が改善されれば入団を検討する」（3.3%）と入団に関心がある方の割合をあわせて 10.9%となっています。

➡ ㉒ 消防団に入団しない理由（問 28-2）

問 28-1 で「4.環境等が改善されれば入団を検討する」、「5.入団しない」と回答された方にお尋ねします。消防団に入団しない理由は何ですか。（複数選択可）

※ 問 28-1 で 4 と回答された方は、どのようなことが改善されれば入団するかをお答えください。

選択肢	1	2	3	4	5
	地域に消防団があるかどうか知らない	消防団がどのような活動をしているのか知らない	地域に貢献したい気持ちがありません	消防団活動と仕事の両立が難しそう	昔から地域にある組織で入りにくいイメージがある
R 5	13.5%	10.9%	3.4%	24.3%	10.6%
R 4	34.3%	17.1%	5.4%	22.8%	7.9%

	6	7	8	9	10
選択肢	家族の理解が得られない	職場の理解が得られない	体力的にきついイメージがある	報酬が安い	その他
R 5	3.5%	5.0%	45.9%	4.0%	29.4%
R 4	-	-	20.2%	1.3%	21.1%

- 消防団に入団しない理由について、「体力的にきついイメージがある」と答えた方の割合が45.9%と最も高く、次いで「消防団活動と仕事の両立が難しそう」(24.3%)と答えた方の割合が高くなっています。
- 「その他」の内容について、具体的には「高齢のため」という回答が多数を占めています。

4 今後の予定

地域別、年齢別、関連する設問間のクロス集計等により分析を行ったうえで、令和6年3月下旬に報告書として取りまとめ、市町等とも共有し、今後の防災・減災対策に活用していきます。

(3) 審議会等の審議状況について

審議会等の審議状況（令和5年9月19日～令和5年11月21日）

(防災対策部)

1 審議会等の名称	三重県救急搬送・医療連携協議会
2 開催年月日	令和5年11月21日（書面開催）
3 委員	会長 三重大学医学部附属病院 病院長 池田 智明 副会長 三重県医師会 副会長 田中 孝幸 四日市市消防本部 消防長 人見 実男 委員 三重県精神科病院会 会長 齋藤 純一、他19名
4 諮問事項	なし
5 調査審議結果	令和5年度第1回及び第2回メディカルコントロール専門部会の実施結果について報告
6 備考	